

令和2年1月29日（水）、防衛省近畿中部防衛局では、富山駐屯地において今年度から大型回転翼機の離着陸が可能なヘリパッドを整備する工事が始まり、工事完成後には、同駐屯地が更なる地域防災拠点としての役割を担うことを広く知っていただく機会とするため、砺波市文化会館にて、第37回防衛セミナー「富山の防災拠点～富山駐屯地の役割～」を開催しました。

講演に先立ち、開催地である砺波市の夏野市長からご挨拶を賜った後、講演1として、陸上自衛隊第14普通科連隊長兼金沢駐屯地司令梨木1等陸佐から「富山で災害が起きたとき」、講演2として、富山県総合政策局防災・危機管理課福山主幹から「富山県の危機管理について」と題して、それぞれご講演いただきました。

その後、2人の講師に加え、第382施設中隊長兼富山駐屯地司令赤松2等陸佐、砺波市総務課高畑防災・危機管理班長、防災士連絡協議会の長谷川会長と満保防災士による、「日頃、不安に思っていること」と題したパネルディスカッションを行いました。

当日は、約160名の方が聴講され、「自衛隊の活動が非常によくわかった。具体性のある新鮮な話だった」「自衛隊を頼もしく思った」等のご感想をいただいた反面、「少しでも一般の方の質問時間を設けてほしい」等の貴重なご意見もいただきました。今回の防衛セミナーを通じて、富山駐屯地の役割及び防災に対する日頃の備えや対策について、再認識していただければ幸いです。

当局は今後も、皆様からいただいたご意見を参考に、工夫を凝らしたセミナーを企画してまいります。



第14普通科連隊長 梨木1等陸佐



富山県防災・危機管理課 福山主幹



パネルディスカッション